

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1292000013		
法人名	社会福祉法人 愛仁会		
事業所名	グループホーム 恵天堂		
所在地	〒289-2612 千葉県旭市蛇園2532-9 (電 話) 0479-55-5208		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年1月30日	評価確定日	3月13日

【情報提供票より】(20年12月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	9 人	
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	木 造		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	管理費(水道光熱費) 30,000円
敷 金	150,000円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要(12月16日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.3 歳	最低 67 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人カメリア会 江畑医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年4月に設立し、もうじき2年目を迎えるホームである。ホーム自体はまだできてから日が浅いが、広い敷地内には昭和55年開設の母体である特別養護老人ホーム恵天堂や、同敷地内の江畑医院ほか、多くの介護事業所が併設されており、古くから地元ではお馴染みである。ホーム職員も経験豊富な人が多く、安心感がある。職員は全員常勤職員で、異動・退職が少ないのも同ホームの特徴である。医療面でのバックアップについては万全に近く、多少の医療行為を必要とする人、看取りを希望する人も、原則としてホームに入居することが可能だ。特別養護老人ホームやデイサービスセンターとの合同レクリエーションなど楽しみごと盛りだくさんで、今後は外食の機会を増やすことも検討している。地域の独居高齢者を招くことなども計画しており、今後の発展が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議に入居者家族の参加があまり見られなかった点については、早速改善され、多くの家族が参加するようになった。その他についても、できるところから随時改善を行った。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	現場職員と管理者とで自己評価を作成した。現場職員からは、家族交流を深めていくための案として、日常の食事に家族を招くことを話合った。行事や運営推進会議の参加だけでなく、日常生活における食事の場面と一緒に体験してもらうことで、入居者の様子がより良く分かり、ホームへの理解も深まるのではないかと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、ホームの現況報告などを中心に行っている。今年度に入り、家族の参加が増加した。家族同士の交流の場となり、互いの介護体験などをわかちあうことで、癒しの場ともなっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情対応窓口については、重要事項説明書に明記されている。行事、運営推進会議、面会時等に家族と話しはしているが、意見・要望などはあまり出ていない状況である。家族の真の満足度や潜在的ニーズについての検討が望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	どちらかというと住宅街から離れた場所にあり、日常的に地域住民と触れ合うという環境ではない。しかしながら、地元ボランティアの訪問(友愛訪問と呼ばれている)があったり、行事で道の駅や匝瑳市のふれあいパーク八日市場等に出かけて、地域交流の機会としている。

2. 評価結果 (詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	尊厳、個性、健やか、満足、快適などの言葉を織り込んだ理念は、開設時に職員全員で考え、作り上げたものである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者および職員は、皆で作り上げた理念を大切に日々のケアに当たっている。日常的に話すというほどではないが、折に触れて理念の確認に立ち返るようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームを含む法人の広い敷地は、やや住宅街から離れた場所にある。しかしながら、地元ボランティアの友愛訪問を受けたり、行事で道の駅やふれあいパークに出かけて、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、現場職員と管理者とで話し合って作成した。職員からは、家族とのより一層の信頼関係構築やホームへの理解を進めるため、行事以外に、ホームの日常の食事に参加してもらおうとよいのではという意見が出た。実現に向けて検討を進めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの現況報告や家族同士の交流などを中心に行っている。参加者は地元の議員、交通安全協会関係者、市の介護保険班などバラエティ豊かである。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	旭市高齢福祉課主催の地域ケア会議(市内のケアマネが参加)にホームからも参加し、意見交流の機会としている。また、入居者・待機者名簿は、月1回、必ず市に報告している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議や行事、面会などを通じて、家族には、ホームや入居者の様子を伝えている。入居者に変化があれば随時、電話で連絡をする。また、月1回、グループホーム月報を送付している。定期的に個別の入居者の生活の様子を伝える仕組みは特に無い。	○	毎月送付するホーム月報に、入居者別の便りを添えるなど、個別の暮らしぶりや健康状態などを定期的に伝える仕組みがあると、更によいと思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事、面会などを通じて、意見表出の機会を作っている。家族同士の交流などは進んできているが、ホームへの意見・要望を忌憚無く発言するまでには至っていない。	○	家族の満足度を確認する試みが必要と思われる。潜在的ニーズがあるかないか、意見・要望の吸い上げの工夫が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特別な事情が無い限り、法人の事業所間で職員の異動を行うことは無い。またホームでは退職者がほとんどなく、特に入居者への影響は出ていない現状である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の研修には積極的に職員を参加させ、受講後は全職員で情報共有している。また介護福祉士等の資格取得にも組織として支援している(受験費用の半額負担、出勤扱いでの研修参加等)。今後は、比較的经验の浅い職員等に向け、段階別の指導・研修の計画を立てることを検討している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業他社との交流の機会を持っているが、現場職員一人ひとりまでには至っていない。県の認知症高齢者グループホーム連絡会地域ブロックに所属していたが、集会場所への遠さから先ごろ脱会した。来年度に向けて、全国組織の認知症グループホーム協会に参加して職員にも同業者交流の機会を作ることになっている。	○	現場職員への同業者交流の機会実現が期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居まもない、帰宅願望のある人に対しては、職員が付き添って家を見に行く、ホーム内に親しい人ができるよう配慮するなどの工夫をしている。またホームに空き室がある場合は、2泊3日程度の体験入居も可能である。(1泊5,000円)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者個々のできること・できないことはしっかりと把握している。入居者の日々の状況はミーティングで情報共有し、必要な部分だけ、介助を行うよう心掛けていく。また料理の面で、職員が経験豊かな入居者に教えられることが多いとのことである。		
d					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者がホームでどのように過ごしたいか、家族はホームに何を期待しているかなど、入居時、生活歴や家族関係などの基本情報とともに、希望・意向を把握している。入居後は職員の声かけを通して日々の思いを理解し、家族からも訪問時の対話のなかで考えを聞き出すようにしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は入居者の健康状態や生活歴などの基本情報とともに、入居後1ヶ月くらいの間のホームでの様子や問題点をケア会議で分析し、それらを総合してユニット責任者が中心となり作成する。計画書には「総括的な援助方針」のもと、解決すべき「長期・短期の目標」「サービスの内容」等が詳細に書き込まれる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は通常6ヶ月に1度、サービス検討会議等で見直しを行なっている。状況が変化した場合は、専門医、ケアマネジャー、担当職員らが家族とも相談し、介護内容に手を加えるなどの見直しを随時行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの提携医以外のかかりつけ医に通院する際は、家族に付き添いを頼んでいる。家族で対応できないときは、職員が通院介助する。買い物や理美容に出かける際も職員が付き添う。敷地内には特養やデイも併設されており、緊急時には職員の応援が得られるので、これも有効な多機能支援になっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は、法人理事長が院長を勤める協力病院を主に利用している。症状によってはそれ以外の医院も利用するが、緊急時には協力病院の支援が得られる。協力病院は必要に応じて夜間診療・ホームへの往診もしてくれる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化したときは家族、かかりつけ医らを変えてターミナルケアの方針が相談される。「ホームで最期を」という入居者・家族には、医師がホームに足を運び、必要な治療を続けながら看取る体制は準備されている。看取りに関する指針の説明文書もあり、家族との同意書も交わしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴の際の衣服の着脱、排泄介助の際の声かけなど、羞恥心への配慮についてはマニュアルを備えている。個人情報ファイルは厳重保管するなどプライバシー保護を徹底している。入居者がうっかり何かを忘れてたり、し損なったりしたときも恥ずかしい思いをさせないように、そっと指摘している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活のなかで食事や入浴の時間は決められているが、食欲のない人、「きょうは風呂に入りたくない」という人などには、無理強いせず、一人ひとりの体調や気分を考慮しながらサービスを提供している。お酒が好きな人は適量なら飲むことは自由である。またタバコについても、希望があれば職員見守りの上で、喫煙が可能である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3度の食事は、同法人の老人福祉施設の厨房で惣菜が作られ、ご飯等の主食と汁物は職員がホームで調理する。入居者によって、刻み食にしたり分量を減らしたりの配慮をしている。入居者が手伝って配膳がすむと、職員も一緒に食卓を囲み、声かけをしながら食事をしている。職員がおやつを手づくりすることもある。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日沸かし、一日数人ずつ入浴している。「入りたくない」という人には声かけの工夫や順番を変えるなどして促している。入浴介助が必要になったときは、同敷地内の老人福祉施設の「特浴」設備を利用することができる。	○	浴室隣の脱衣所は、冬場、床置き型のハロゲンヒーターで暖をとっている。取付け式ハロゲンヒーターまたはエアコン等の導入を検討中とのことで、実現が望まれる。
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫の得意な人は雑巾を縫い、料理の好きな人はみそ汁の具を刻んでいる。一人の男性入居者は野菜の収穫の季節に畑仕事を手伝う。ホームでの暮らしに張りを持ち、ADL(日常生活能力)も長く保ってもらおうと、可能な入居者には出来る範囲で役割分担を働きかけている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に配慮しながら一人ひとりの希望に沿って散歩や買い物に誘い出すようにしている。高台にあるホームから市街地が遠望され、随所に林が残って散歩にはうってつけな環境である。入居者がまとまっての外出も月に2～3回計画され、花見や紅葉見物、ブドウ狩りなどを楽しんできた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には内側からも外側からも空けられる鍵がついており、事故予防やプライバシーの保護に役立っている。玄関は入居したばかりで帰宅願望のある入居者に事故がないよう、安全を考慮して鍵をかけている。入居者が落ち着いたら、日中の開錠を検討していく。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人の事業所全体がまとまって災害対策を実施している。防災訓練は年に3回、消防署の指導・協力で行なっている。地震や火災に備えた避難訓練が主体だが、当グループホームは平屋建てのため高層階からの脱出といった困難は無い。避難に際しては事業所全体からの救援も得られる体制になっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取する食事の量や水分量は入居者個別に記録されている。嚥下困難な人、食べ物に好き嫌いがある人などには個々の状況に合わせた食事を調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に沿って南北に居室が並び、中央にホール(食堂兼居間)がある。ホールの前庭には広いウッドデッキがしつらえられ、眺めがとてもよい。新築の建物は清潔で、廊下には月々の行事の際に写した写真や入居者の色紙作品などが飾られ、暮らしに彩りを添えている。一方で食事の際、テーブルを囲んで入居者全員が椅子に腰かけると、間を立ち回るゆとりがあまりない。席を立つ入居者が転倒することのないよう、充分な見守りが期待される。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはトイレが完備しており、重度化した際にもポータブルトイレを持ち込む必要もなく、快適に過ごせるようになっている。部屋には馴染みの家具や小物が置かれ、個別に居心地のよい雰囲気作りがなされている。		